

## 職場のポイント

- ・新しいこと、ものを積極的に導入
  - ・系列施設としっかり連携してケアに生かす



ユニットのリビングスペースで洗濯物をたたむ利用者を、  
窓側で見守る

岐阜市鏡島南、特別養護老人ホーム燐燐

## 介護職員

やりがい聞いてみました

けは、  
中学生の時、母が介護職員  
になりました。別の業種で働  
いていたので、国家資格の介護福祉士を取  
得しました。高校卒業後は、介護老人保健施設(老健)に就

て生活する」という目標があるため、一時的に滞在する施設ですし、リハビリなどの時間が多いで、利用者ともっと深く関わりたいとの思いか

前から燐燐で働いています。ちなみに母は今も現役で働いていますし、3歳年下の弟も大垣桜高校福祉科、大学へと進み、現在は県内の別の法人で介護職員をしていますので、親子3人でこの業界において話になっています。

ら、利用者それぞれに個室があり、その前にリビングスペースがあるというアットホームな雰囲気の中、個性や生活リズムを大切にできる「ユニットケア」をしている燐燐に移りました。

特養は、利用者にとってこれが“おうち”です。1つのユニットには10人の利用者がいて、5人の職員が交代で関わります。職員同士で話し合って利用者それぞれに合ったケアができる点に魅力を感じています。

— やりがいや大変なことは。

利用者から「あなたにやつてもうえて良かった」などと直接言ってもらえることが、やりがいにつながっています。また、利用者の状態が良くなつていく変化が目に見えるときもうれしく、それらの積み重ねが力になつていきました。高校時代から一貫して介護そのものをやめたいと思つたことは一度もありません。自分が笑顔でいること、利用者の笑顔も増えていきますので、これからも笑顔で頑張りたいですね。

大変だと思うことはユニットリーダーとして職員をまとめなければいけないことがありますので、これからも笑顔で頑張ります。

す。新しく入った方だつたり、経験者であつても従来型の特養で働いていた方だつたりすると、ユニットケアとはどういったものかという事から、うまく伝えていく必要があります。思いを伝えることは簡単なことではありません。指導法などをもっと学んでいく必要があると日々感じています。